



第60回 糖尿病学の進歩 ランチョンセミナー8

血液中miRNAを用いた膵がんの早期発見・早期診断 ～膵がん検診の未来に向けて～

2026年3月27日(金) 11:50～12:40 第8会場 ホテルメトロポリタン盛岡 4F 早池峰

座長

聖路加国際病院 内分泌代謝科

部長

能登 洋 先生

演者

京都大学大学院医学研究科 消化器内科学

准教授

福田 晃久 先生

※本セミナーは、整理券制ではございません。先着順でのご入場となります。

※本セミナーは、現地開催のみです。

詳しくは、第60回 糖尿病学の進歩ホームページをご参照ください。

<https://site.convention.co.jp/60shimpo/>



第60回 糖尿病学の進歩 ランチョンセミナー8 血液中miRNAを用いた膵がんの早期発見・早期診断 ～ 膵がん検診の未来に向けて～

京都大学大学院医学研究科 消化器内科学
准教授 福田 晃久 先生

膵癌は予後不良な難治性癌です。膵癌は特異的な症状に乏しく、早期診断に有用なバイオマーカーがないため、早期発見・早期診断が難しく、約半数は診断時に遠隔転移を伴うStage IVであり、Stage Iで診断される膵癌は膵癌全体の5%程に過ぎないのが現状です。したがって、膵癌早期診断のためのバイオマーカーの開発が強く望まれています。血液中miRNAプロファイルは、がんスクリーニングにおけるリキッドバイオプシーとしての有用性が報告されています。我々は最近、アークレイ社との共同研究で、血液中miRNAおよび血液中miRNAとCA19-9の組み合わせによる膵癌判別モデルにより、膵癌と健常者で膵癌発症の有無を高精度に判別できることを示しました。14病院から集めた膵癌患者212検体と健常者213検体をトレーニングコホート（学習群）（n = 185）とバリデーションコホート（検証群）（n = 240）に分け、次世代シーケンサーで血液中miRNAの発現を網羅的に測定し、トレーニングコホートを用いてAIによるアンサンブルモデルを使用し膵癌判別モデルを作成し、バリデーションコホートにてその性能を検証しました。血液中miRNAとCA19-9を組み合わせた膵癌判別モデルは、高い精度で膵癌患者（全Stage）と健常者を判別することができ（AUC：0.99、感度：90%、特異度：98%）、早期（Stage 0-I）の膵癌コホート（n = 30）（AUC：0.98、感度：77%、特異度：98%）や無症候性の早期（Stage 0-I）膵癌コホート（n = 21）（AUC：0.97、感度：67%、特異度：98%）においても、高い判別精度をみとめました。血液中miRNAとCA19-9を用いた膵癌判別モデルは、膵癌を特異的かつ早期に判別するバイオマーカーになりうることを示されました。現在、血液中miRNAによる膵がん検診に向けて、社会実装できるようにアークレイ社と共同で引き続き取り組んでおります。

第60回 糖尿病学の進歩 企業展示会のご案内

開催期間 2026年3月27日（金）、28日（土）

展示会場 いわて県民情報交流センター（予定）

展示内容 血糖自己測定器、採血用穿刺器具、グリコヘモグロビン分析装置、合併症検査機器ほか

※展示品は変更になる可能性があります。

— アークレイからのお知らせ —

LINE公式アカウント「検査のアークレイ（医療従事者用）」

セミナーのご案内や友だち限定のコンテンツなどを配信しています。
アークレイから発行している情報誌などの情報も定期的にご案内しています。

友だち追加は
こちらから

